

**A級はスピード豊かな内山雅貴
ガールズは実力者の石井貴子を中心！**

シリーズリーダーは、前期S級の内山雅貴。前期のS級でも自力で7勝を挙げている。7月に降級すると、函館、岐阜で2場所連続の完全優勝。S級特進を目指した立川では、最後の最後に準優勝に終わり、惜しくも特進を逃した。スピード豊かな機動型で、ドームの軽いバンクも得意。番手は南関で得点上位の山本健也が回る可能性が高い。

前期S級の高澤幸司も鋭い差し脚を持っている。北日本に力のある機動型が不在なだけに、初日特選では内山の番手を回れる可能性もありそうだ。北日本では、タテ型の前川大輔にも注目したい。

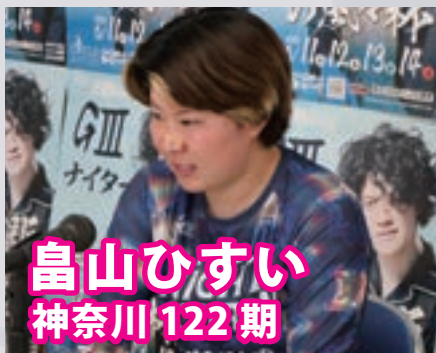
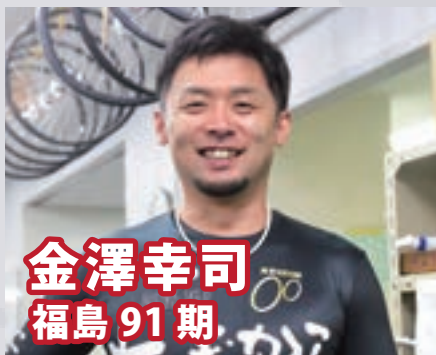
関東は小林稜武が自力型の中心。降級直後の弥彦でいきなり優勝を飾っている。地元の須藤直道と矢島一弥は予選スタートとなり、野中祐志が番手を回る。新鋭の今井希も上昇気配で、順当に勝ち上がってきそう。

遠征勢では、中野雄喜と吉田茂生の中部近畿勢に注目。両者とも安定感があり、準決では本命視される。中野は長い距離を踏めるのが持ち味で、吉田は脚質を変えながら、レースのテクニクも身に付けてつある。

2班の若手では、安達光伸が台風の目になりそう。勢いもあり、優勝戦線に絡んでくる可能性は十分だ。

ガールズケイリンは、実力者の石井貴子を中心。ビッグレースでの優勝実績もあり、クレバーなレース運びは健在だ。自然と先行選手の番手を確保するか、ショート捲りで完全優勝を目指す。畠山ひすいもGI出場の常連になりつつあり、格上相手にも真つ向勝負を挑むスタイルは魅力。7月下旬の岐阜、8月上旬の武雄で連続完全優勝を飾った吉岡詩織も好調で、自力を中心に流れに依じて臨機応変に攻める。他に競走得点が50点以上の選手は、田中まい、板根茜弥、高橋美沙紀、露谷菜々花、清水美海。

入展望

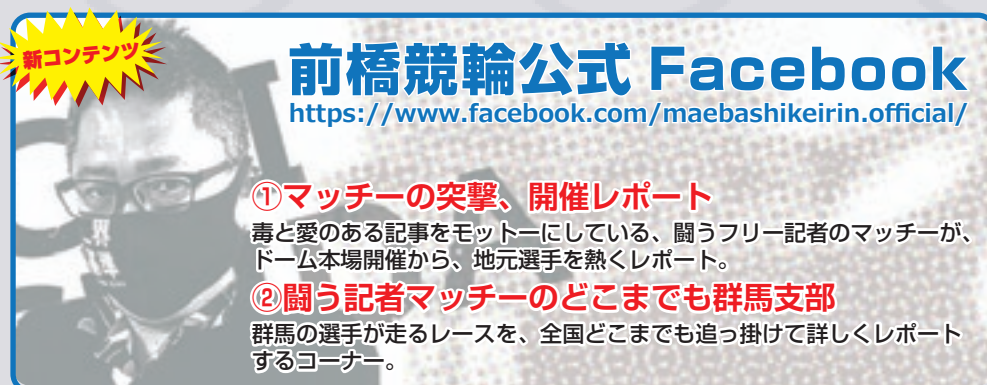


※2026年 8月 24日現在のデータです。

出場予定選手（A級）													※2026年 8月 24日現在のデータです。														
A1	地区	選手名	期	府県	選手名	期	府県	選手名	期	府県	選手名	期	府県	A2	地区	選手名	期	府県	選手名	期	府県	選手名	期	府県	選手名	期	府県
	北日本	吉田 優斗	125	岩手	佐藤 朋也	89	秋田	金澤 幸司	91	福島	前川 大輔	113	福島		北日本	井上 公利	93	宮城	山口 茂	98	福島						
	関 東	渡邊 高志	84	栃木	阿久津 修	88	栃木	小林 稜武	113	栃木	須藤 直道	68	群馬		関 東	岩崎 大和	94	茨城	北野 良孝	95	茨城	篠崎 高志	72	栃木	宮内 善光	88	群馬
		矢島 一弥	92	群馬	野中 祐志	98	埼玉	尾崎 悠生	113	埼玉	今井 希	125	埼玉		関 東	大畑 裕貴	92	埼玉	飯島 淳	78	東京						
		樋口 開土	113	東京											関 東	河上 陽一	99	千葉	伊藤 彰規	96	神奈	井上 嵩	97	神奈	望月 紀男	79	静岡
	南関東	山本 健也	89	千葉	鈴木 良太	86	静岡	落合 達彦	96	静岡	内山 雅貴	113	静岡		南関東	若辺 隆一	127	静岡									
		山本 深瀬 泰我	119	静岡											中 部	富安 保充	91	愛知	水谷 亮太	125	愛知	松尾 淳	77	岐阜	安達 光伸	127	岐阜
	中 部	加藤 寛治	83	愛知	高野 信元	125	愛知	吉村 和之	80	岐阜	吉田 茂生	98	岐阜		中 部	倉野 隆太郎	91	三重	下岡 将也	111	三重						
近 畿	中野 雄喜	111	京都	小林 卓人	79	大阪							近 畿	武田 哲二	65	京都	佐野 洋継	97	京都	葉狩 伸泰	78	大阪	西本 直大	92	大阪		

■ 出場予定選手(ガールズ) ※2026年 8月 24日現在のデータです。

	地区	選手名	期	府県	選手名	期	府県	選手名	期	府県	選手名	期	府県
L1	関東	萩原 瑞生	102	群馬	板根 茜弥	110	東京						
	南関東	田中 まい	104	千葉	石井 貴子	106	千葉	畠山 ひすい	122	神奈	清水 美海	130	神奈
		野寺 梓	126	静岡									
	中部	高橋 美沙紀	124	愛知									
	近畿	西田 美菜	128	奈良									
	中国	吉岡 詩織	116	広島									
	四国	露谷 菜々花	130	高知									
	九州	野口 諭実可	102	大分	溝口 香奈	108	大分	成海 綾香	128	沖縄			



【9月開催】 場外発売 GⅡ・GⅢのレース展望

9/3 (木) 4 (金) 5 (土) 6 (日)
青森記念 みちのく記念 善知鳥杯争奪戦 **GⅢ**

心はS級S班から3名が参戦するが、中心は地元の新山響平。69周年記念以来、優勝から遠ざかっていただけに、2度目の地元記念Vを目指すシリィズとなる。8月中旬の段階で賞金ランキングは9位、獲得賞金は約5500万円。グランプリ出場を考えても、この優勝は大きな意味を持つ。小堀政太や山崎歩夢が勝ち味を持て、その敗戦手を回ることになりそうだ。さらには、S班スターで優勝した澤本太志をはじめ、S班の阿部拓真ら援軍も豊富。番組面の恩恵もありそうで、日本勢が大挙して決勝に進出する可能性も十分にある。

郡司浩平は大会連覇を狙う。オールドタイムレースでの落車失格は残念だったが、レース後は歩いて帰リ支度を始めており、ケガの影響はなさそうだと。番手を回るのは、選手会副支部長の和田健太郎と同僚の和田真久留。南関ラインの結束力にも注目したい。

関東は、今後さらなる活躍が期待される木村皆斗、鈴木玄人、森田優弥、恩田淳平らが参戦。森田は2班で予選スタートとなるが、最低でも優勝は果たしたいところ。ただ、他地区と比べると全体的にやや小粒な印象は否めない。

近畿はS班の寺崎浩平が中心で、三谷竜生、村田雅一、岡崎智哉が脇を固める。寺崎は鎖骨骨折からの復帰途上だが、ここまでに状態もかなり戻ってくるはず。どこまで本来のスピードを取り戻しているかがポイントになる。

中部は志田龍星が中心で、こちらも相変わらず地区としてはやや手薄な印象。志田がロングの仕掛けで、どこまで存在感を示せるかだ。

中国四は取島雄吾・岩津裕介の岡山コンビに、猪突猛進の石原颯と香川雄介の香川コンビ。石原はロングスパイトを持ち味とする積極型で、取島も平塚タービーで初のG1優出を果たすなど、近況は充実している。機動型型がそろっており、展開を作る意味でも注目の地区だ。

九州は荒井崇博が存在感を放つものの、機動型が手薄。そのため、状況次第では西のライオンという括りで、取島や石原との連係も考えられる。



新山響平
青森 107 期

9/10 (木) 11 (金) 12 (土) 13 (日)
京都向日町記念 平安賞in奈良 GIII

京都向日町記念の代替開催として、奈良競輪場で行われるシリーズ。近畿の選手たちが地元意識を持って大会を盛り上げる。シリーズリーダーはS級S班の古性優作。近畿勢の牙城を守る存在とみて、大きな期待が集まる。賞金ラッキング1位をキープしており、年間獲得賞金4億円も現美味を帯びて。

市田龍生都や中金章成が同乗すれば番手を回り、前を残す競走も見せるだろう。市田はナショナルチームを卒業し、勝負の年を迎えている。一方、古性自身はまだこの大会で優勝がなく、それもナショナルの高さにつながりそうだ。過去5年のナシバ優勝者は大伏湧也、脇本雄太、北井佑季、脇本雄太、脇本雄太。近畿の牙城を守ると同時に、自身の向日町記念制覇を狙う。

番手を回る、盟友とも言える南修二の援護も心強い。S級S班としてはまだ十分な結果を残せていないものの、ひとつひとつの仕上がりは高く評価されてきている。もちろん、地元の村上博幸、山田久光、徳、窓場千加頼、高久保雄介も気合十分。向日町記念が再開されるまでには、まだ時間がかかるの見込みで、当面はこの形での記念開催が続くことになりそう。

対する関東勢では吉田拓矢が古性に匹敵する脚力を誇る。ヨコのテクニクでは古性に一日の長があるが、純粋なスピードなら吉田が上回る場面もある。安定感があり、大崩れの少ない点も魅力。栃茨ラインで徹底先行の杉浦清吾が存在を示しているが、吉田にとって大きな援手となる。他にも宿口陽一、諸橋愛、神山拓弥ら実力者がそろって。北日本勢は「青森記念に主力メンバーが参戦しているため」今シリーズは佐藤慎太郎がビッグネームと言える存在。超小回りの奈良バンクだけに、好目標を得られないと苦戦を強いられそうだ。

南関根田空史、佐々木真也、道場晃規が中心。なかでも道場は鋭い捲りを武器に、格上相手でも穴を出す魅力がある。展開ひとつでは上位進出も十分可能。

中部は大將格の浅井康太が全体をまとめる。ただ、機動型は山田諒や村田祐樹ぐらいて、タテ脚をしつかり発揮すると考められる。

中国国は、オールスター王者となった犬伏湧也を中心に、地区全体の勢いがさらに高まっている。犬伏は自身の送り込む一人でも多くの仲間をグラブリーへ事打ち込むことも役割のひとつ。町田太我もヨコの動きを身につけており、犬伏の番手を回る展開になっても不安はない。

九州はつづものぞろいで、山田庸平が全体を引っ張る。阿部将大、伊藤旭、小川勇介からも決勝進出を目指しており、一発の魅力はある。

S級2班では、新銳の丸山留依と地元の谷内健太に注目したい。上位勢を相手に、どこまで先行力か通用するかがポイントになる。



古性優作
大阪100期

9/18 (金) 19 (土) 20 (日) 21 (月・祝)
富山 共同通信社杯競輪 **GII**

GⅡ開催ながら、優勝賞金は320万円。数年前のGⅠより高額賞金だ。この大会は「若手の登竜門」として知られ、13期（29期生のうち）、選考期間（2026年15月）の平均競走得点上位者25名が選抜される特色ある大会でもある。初日特選はなく、オール一次予選。二次予選は、一次予選の成績により自動的に振り分けられ、準決からが従来の番組マンによる編成になる。

S級S班からは、王者・古性優作をはじめ8名が出場予定。一方で眞杉匠は、事故故のベナルティによる9月のあせせん停止処分を受けているため不出場となった。共同通信社推薦選手は、荒井崇博、浅井康太、小堺透の3名。荒井はGⅠ通算12度の決勝進出歴を持ち、全日本選抜競輪、日一選手権に名を連ねるなど、高いレベルでの安定感が推薦理由に挙げられている。過去5年の優勝者は昨年の南修二、眞杉匠、深谷知広、郡司浩平、山口拳矢となっている。8月中旬での賞金ランクは1位の古性優作、吉田拓矢、大伏悠也、眞杉匠、深谷知広、松浦悠士、脇本雄太、郡司浩平、新山響平。9位の新山が約5500万円で、15位の荒井崇博でもかなり僅差の賞金争いになっている。この面でも注目が高い大倉だ。今節も地区の勢いが大倉に親王牌、11月の小倉競輪祭に於いて、どの地区が勢いがあるか考えてみたい。順当に考えれば、古性を擁する近畿ラインだが、大伏湧也がタイトルホルダーになり、中四国に風が吹いてきた。ナショナルチームのメンバーが不在で太田海也の存在は痛い。そこまでの影響はないだろう。直線はそこまで短くなく、400に近い短走路。犬伏の番手は回れる機動型の太勝と予想したい。根本貴治、町田太一、清水裕友、石原眞治、取島雄吾にチャンスのある大倉だ。



犬伏湧也
徳島 119 期

9/26 (土) 27 (日) 28 (月) 29 (火) ナイター
岐阜記念 長良川鵜飼カップ GⅢ

GII以上の大会では苦戦を強いられ勝負になる。中心を担うのは、ホームバンクの清水裕夫、松浦悠士、田代竜馬、桑原大志、郡司浩平と中四国勢や南関東勢が名を連ねているが、今回は地元のヤマケンが4日間、緩めずに走って堂々たる主役を務める。

地元岐阜の機動型は、移籍してきた吉田有希をはじめ、棚瀬義大、岩井忠と充実している。この選手も出回るタイプではなく、山口の前を回ることにすれば、自然と仕掛けも早くなるはず。地元の記念で結果を残すためにも、シビアに勝たに行く走りに徹したい。後ろを固めるのは、ペテランの志賀俊夫に川口聖二・公太朗の兄弟。中部全体で結束して、ヤマケンを盛り立てる。対する最大のライバルは脇本雄太。現在は肘のケガとの戦いが続いているが、脚力があるのでに衰えはない。番手を回るケースも増えており、前を残しながら自分も勝つための技術を磨いている。最大の目標は年末のグランプリであり、そこへ向け徐々に状態を上げていきたい。近畿で、仕事のでる稲川翔と三谷将太が有力な援軍となる。

北日本は新田祐大に同県の渡部幸訓。新田は賞金ランキングでも上位につけており、復活を印象づけるシーズンになりそう。自力での戦いはもちろん、ラインを生かした組み立ても注目したい。

関東は武藤龍生が点数上位で、菊池岳仁との連係が中心になりそう。いつもの記念戦に比べる機動型が少なく、武藤も立ち回りは難しくなる。

南関は渡邊雅也、青野将大が主力。番手にはレース巧者の松谷秀幸があり、若い機動型を援護していく。展開ひとつで南関勢も優勝争いに食い込んでくる。

中四国は松浦悠士、松本貴治、桑原大志が中心。松浦と桑原という実績十分の2人がいることでラインは引き締まる。

九州は山崎賢人に山田英明の並び。山崎のスピードに山田の決め脚が加われば強力なで、順当に勝ち上がってくれば決勝でも存在感を示そう。

地元の山口を中心に、脇本をはじめとした各地区の実力者が顔をそろえる。地元勢が結束力で対抗するが、それとも実績あるS級トップ選手が力でねじ伏せるのか。岐阜の4日間は、地元の意地と全国の強豪による激しい争いになりそう。



山口拳矢
岐阜 117 期